



入園して初めて迎えた夏、もみじ組のテラスには子どもたちの愛らしい歓声が響き渡りました。

初めての水遊びに、最初はびっくりドキドキしてしまう子もいましたが、友だちが遊んでいるのを見たり、おもちゃに手を伸ばしているうちに少しずつ表情も和らいでいました。今ではジョウロやシャベルで水をすくったり、水面をぴちゃぴちゃと叩いて心地よい水音を楽しむ姿が見られるようになりました。日ごとに遊び方もダイナミックになり、それぞれのペースでたくさんの成長を見せてくれた子どもたちです😊

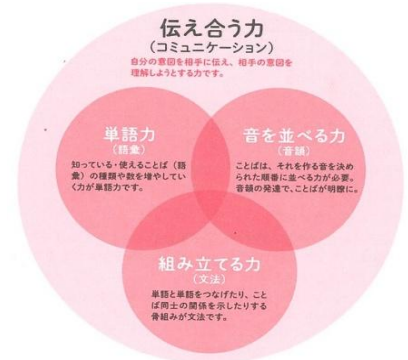


ことばのちから



ことばが発達していくためには、まわりの人と気持ちや状況を伝えあう力（コミュニケーション）、単語力、そして単語をつなげ分を組み立てる力、音を並べる力、この4つの力が必要となります。

ことばの発達には順序があります。
今のもみじ組の子どもたちは、「前言語期」といって声や動作、表情で自分の意思を伝えようとする時期です。
今、保育園で言葉掛けをする時に大切にしていることやことばを引き出してコミュニケーションを増やすために心がけていることをいくつかご紹介します。



★同じものを見て話す

「こども(自分)」と「相手(大人)」と「もうひとつ(目に見える物)」の3つの関係のことを「三項関係」と言います。この3つの関係がわかることによって、相手と同じ物に注意を向けている、相手にも自分と同じものを見て(聞いて)ほしいという気持ちが芽生えます。子どもが指差しをしたり、「あっ」と何かに気が付いたサインがあった時には、「葉っぱだね」「電車が見えたね」と子どもの気づきを言葉にして伝えるようにしています。

★同じ量・長さ・レベルのことばを選ぶ

子どもが話せる量やレベルに合わせて言葉掛けをしています。
今のもみじ組では、声やリズムを意識したり、オノマトペ(擬音語、擬態語)や赤ちゃんことば(ブブー、ワンワンなど)で子どもの発声を引き出すことを意識しています。
わらべうた遊びも、ことばの発達を促すためにとても良い効果があります😊
わらべうたを歌うと、歌に合わせて体を動かしたり、もっとやって～とすぐさで教えてく